

足拍子川 風穴 沢

風 穴 ス ラ ブ

79年6月3日 (曇後雷雨)

(編成) L田中隆、塚原正典

(行動内容) かなり早いペースで歩き、

本谷出合で朝食をとる。沢の水量が少ないので、雪溪があるか不安になった。こままでのアブローチは、花が咲き、鳥が鳴くといった爽快な感じだった。

これから先の沢は、ツルツルのスラブ状小滝が連続し、登山靴では登れないので、左右にやぶこぎをやらされた。

初めのゴルジュを越えたところから、雪溪が出てきたが、見るからに薄そうだったので、緊張させられた。雪溪に乗るまでも、急な泥壁のトラバースをさせられ、そこでハンマーのピックが役にたった。雪溪は問題の第二ゴルジュのところで切れてしまい。雪溪の下十メートルほどのところに、チョックストーンの滝がかかっているのが見え、自分たちが立っ

るところの恐しさを実感した。ここは左手のやぶをこぎ、適当なところから、ザイルで下降した。その上すぐ右手から入るのが風穴スラブで、下から見ても稜線の木の一本一本が見えた。出合から五メートルほどの小滝が連続した。悪い滝は左手をまくことができた。五つほど滝を越えようとスラブ状となり、アンザイレンした。

一ピッチ目は急な右手の草付の壁を直上し、二ピッチ目は本流にもどり、上部五メートルほどが立っている滝状のところを越える。ここがこのスラブで最も悪いところだが、それほど悪くなかった。

上部はゆるいスラブが続く、いい加減あきあきするころ、右手に風穴が見え、そろそろボロボロになりはじめたスラブを風穴に向け右上した。風穴の手前のテラスで昼食を食べ、風穴を左に回りこんで、稜線までやぶをこいだ。

稜線に出たころから、雷と雨にあい、すぐに中里へ下った。

(タイム) 越後中里 3・00 本谷出合 4・50 (5・15) 風穴スラブ出合 7・20 洞穴 10・00 (11・00) 稜線 11・50 越後中里 13・30

(田中隆記)

